

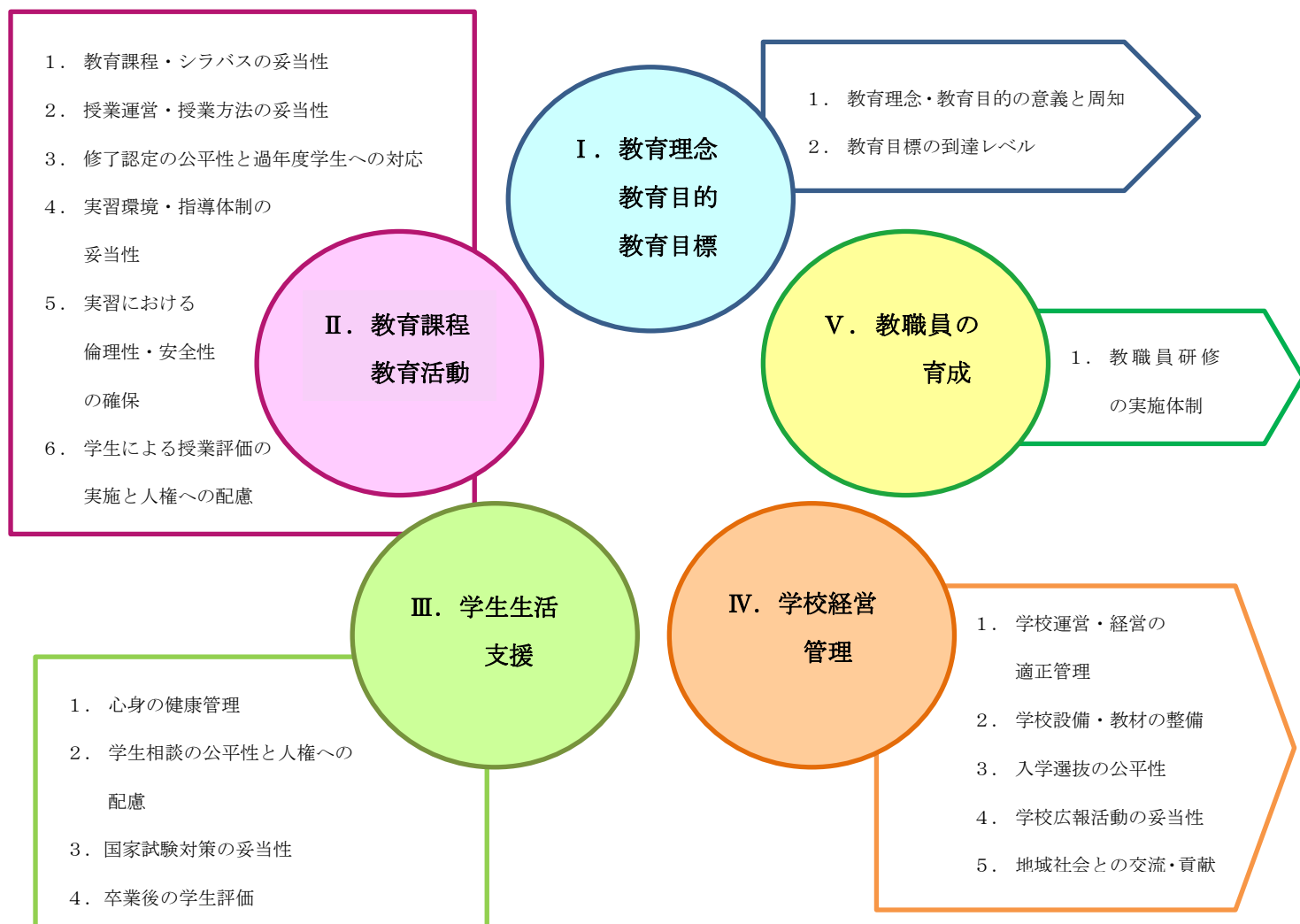
《学校自己点検・自己評価のねらい》

本校の看護基礎教育は、3年課程である第1学科は17年目、2年課程である第2学科は37年目を迎えました。准看護教育を含めると半世紀に及び教育活動を続けており、確かな実績と伝統に支えられています。地域社会や保健医療福祉領域に貢献する優れた看護師を育成するためにも、看護学校として質の高い教育体制を確立すること、学生にとって学習しやすい環境を整えることが重要だと考えています。

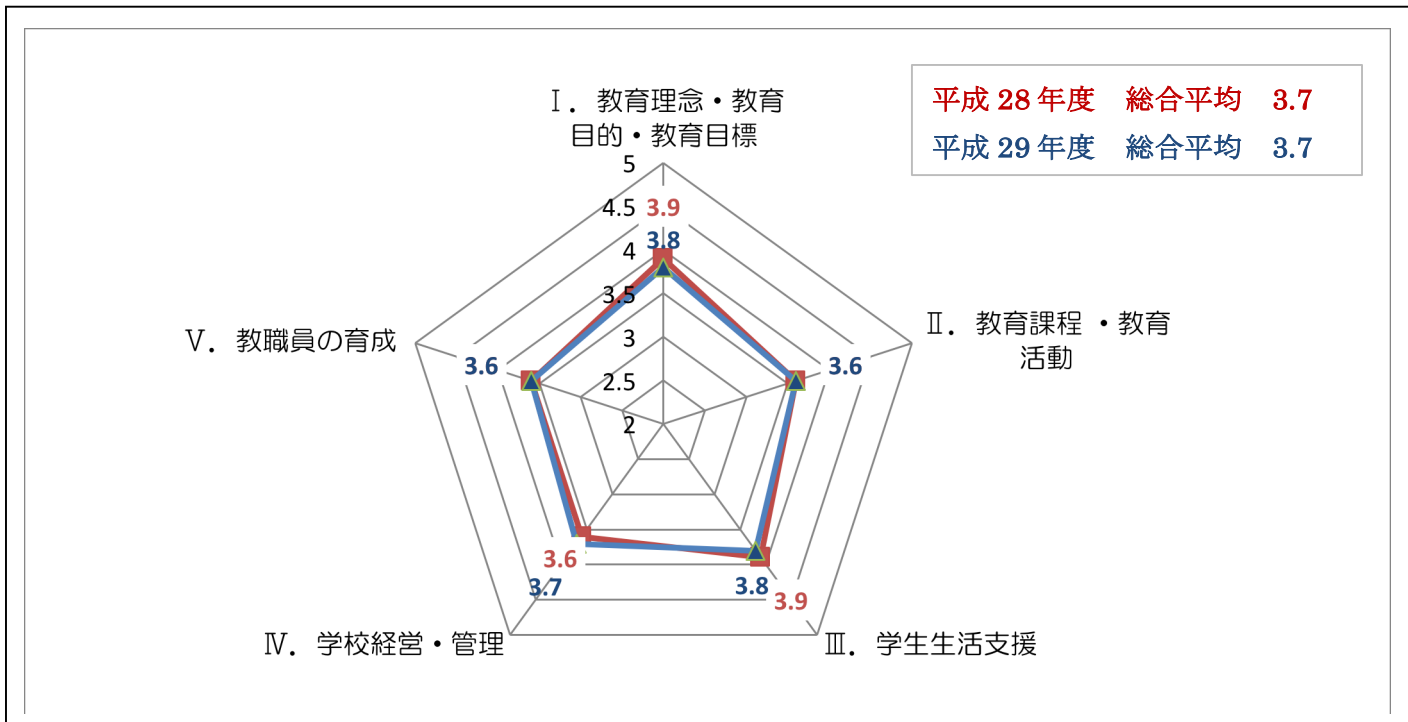
本校では時代の趨勢を見極めながら看護教育水準の向上を図るために、平成18年度から自己点検・自己評価委員会を発足させ、授業評価のあり方から議論を重ねてきました。そして、平成24年度から学校組織全体を総合的に「自己点検・自己評価」し、その結果を公開しています。

本校の基本理念である「人類愛」を実現し、「愛し愛される看護師」を育てるために、地域の皆さまや患者様から、また看護師を目指す若者・ご家族の皆さまから信頼され、「開かれた魅力ある学校づくり」を目指しています。本校の教育活動その他の運営状況について客観的に評価を行い、良い面はさらに伸ばし、また改善すべき点は明確にして、看護教育活動のさらなる向上を目的に努力し続けていく学校を目指し続けていきます。

《学校自己点検・自己評価の評価項目》



平成 29 年度 学校運営 自己点検自己評価（平成 30 年 1 月実施）



評価基準：5 かなり高い 4 高い 3 普通 2 低い 1 かなり低い

平成 29 年度、教職員による自己点検・自己評価は、すべての項目で 3 以上であり総合平均点は 3.7 昨年度とほぼ同様で全体的にバランスがとれた学校運営であると自己評価しています。

【I. 教育理念・目的・目標】【III. 学生生活支援】は 3.8 で他の項目より高いですが、昨年度より 0.1 低いという結果でした。今年度第 1 学科の新人教員が多く入職し、教育目的や理念について理解を深めることまでの説明や指導が不十分であったことや個々の背景や特性が複雑な学生が多く、指導が困難であったと自己評価した結果ともいえます。評価項目で高いものは、「II-5. 実習における倫理性・安全性の確保」、「III-3. 国家試験対策の妥当性」が 4.1 でした。これらの項目は、本校の教員が特に力を入れている教育である自己評価の表れであるといえます。その結果、今年度の国家試験は、第 1 学科 63 名（定数 80 名）全員合格、第 2 学科 40 名（定数 40 名）中 1 名不合格でした。第 1 学科は 2 年連続、第 2 学科は 97.5% でしたが、いずれも高い合格率となりました。本校の国家試験対策では、今までの経験を活かした独自のプログラムで教員全体で協力し学生に関わっています。今後は、最終学年に限らず低学年からの学習支援を強化し基礎学力を定着できるような対策を検討していきます。

大項目 IV は昨年度より 0.1 上昇しました。年度目標や計画を役割毎に立案し実践していることや、入試方法を手順通りに実施し統一した安定した運営ができています。さらに今年度はパンフレットを新しくしたことも影響しているといえます。その他の大項目 II、V は 3.6 で、昨年度と同様の結果でした。

全体で低い評価項目は、「II-4. 実習環境・指導体制の妥当性」、「IV-2. 学校設備・教材の設備」の 3.3 でした。「実習環境・実習指導体制への課題」は、主たる実習施設の担当者と対策を検討した結果改善したことも多くありました。しかし、実習病棟や指導者により違いがあり、課題を明確にし必要に応じて実習病院との検討を継続しよりよい実習ができるように体制や方法を考えていきます。「学校の設備・教材に設備」の課題は、学生数の増員により自由に使用できる教室が制限され教員が調整するのに困難であったことがあげられます。限られた設備で少しでも学習できるような教室の使用方法を再検討していくことと本校の今後の方向性を明確にしハード面を計画的に検討して行く必要があります。教材では、PC を増やしたことや新しいシュミュレーターの購入等を随時しているため、効果的に活用していきます。

この結果を踏まえて、平成 30 年度も方針及び教育計画を見直し、各項目 4.0 以上を目標に、各学科・各担当で協力し実施していきます。